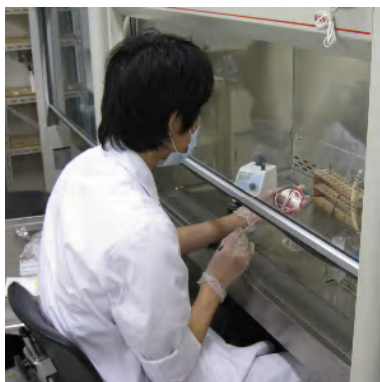


森下 奨太 (第4期生)

鳥取大学医学部附属病院 検査部 臨床検査技師



私は今年の3月に鳥取大学大学院医学系研究科修士課程を修了し、この4月からは同大学医学部附属病院で臨床検査技師として勤務しています。大学院では超音波検査や神経系に関連した検査、いわゆる生理機能検査について研究に取り組み、研究成果を学会という公の場で発表することが出来ました。現在、それらの内容を医学論文として執筆しています。

この4月からは微生物部門に配属され、様々な病原菌に関する検査を行っています。感染症の原因となっている菌の同定や、治療に用いる薬剤の感受性試験が主な業務です。最近では新型インフルエンザに関するニュースが巷を騒がせていますが、ウイルス感染の有無を検査するのもこの部門で行っています。微生物に関する知識のみならず、薬剤に関する知識も必要な、非常に奥が深い分野だと思います。日々学ぶことばかりで大変ですが、充実した毎日を過ごしています。

就職後も引き続き研究活動は行っています。研究に携わることにより学習意欲を向上させ、それが医療従事者として必要な知識習得に繋がり、結果として自分自身を成長させることが出来ると考えているからです。基本的に業務時間外に行うので大変ですが、修士課程で得た知識や経験を生かしながら頑張っています。

臨床検査技師と聞いてもイメージが湧かない、という方が多いかもしれません。私の場合もそうでした。確かに、まだ知名度は高いとは言えません。しかし、診断の基礎となり得る重要な仕事です。鳥取大学及び大学院で過ごした6年間は非常に有意義なものであり、現在の私という人間の骨格を形成するものでした。この職業、そしてこの学校を選択して本当に良かった、と心から思います。